

令和5年度
全国学力・学習状況調査

結果及び分析



伊勢原市公式イメージキャラクター
クルリン

伊勢原市教育委員会教育指導課

令和5年度 全国学力・学習状況調査における伊勢原市結果の分析について

伊勢原市教育委員会

伊勢原市では、児童生徒の学力や学習状況に関し、継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、文部科学省「令和5年度 全国学力・学習状況調査」を実施しました。
伊勢原市立小中学校の調査結果の概要をお知らせします。

【調査日時】 令和5年4月18日(火)

※英語「話すこと」調査は、文部科学省が学校ごとに指定する日に実施

【調査対象学年・参加人数】 小学校6年生 722人 中学校3年生 684人

【調査内容】

1 教科に関する調査

・小学校:国語、算数 中学校:国語、数学、英語

・出題範囲:調査する学年の前学年まで

・出題内容:「知識・技能」及び「活用」に関する問題を一体的に出題

・出題形式:記述式の問題を一定割合で導入、中学校の英語「話すこと」は口述式の問題を出題

2 児童生徒に対する質問紙調査、学校に対する質問紙調査

【調査結果についての留意事項】

- 実施教科が国語、算数・数学の2教科(中学校においては英語を含めた3教科)であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること。
- 年度によって問題の質が異なるため、平均正答率の経年変化のみから、学力の向上、低下の傾向を評価することは難しいこと。

1 教科に関する調査の結果から

(1)平均正答率

小中学校共に、全国及び神奈川県と比較して、正答数・正答率と大きな差は見られませんでした。

《令和5年度 教科に関する調査の平均正答数と平均正答率(%) (公立小中学校)》

令和5年度	小学校調査				中学校調査					
	国語		算数		国語		数学		英語	
	(14問)		(16問)		(15問)		(15問)		(17問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)								
伊勢原市	8.5	61	9.1	57	10.5	70	7.6	51	7.5	44
神奈川県	9.3	66	10.1	63	10.4	70	7.8	52	8.6	50
全国	9.4	67.2	10.0	62.5	10.5	69.8	7.6	51.0	7.7	45.6

※県及び市の平均正答率は、国から小数第1位を四捨五入した整数値で提供されています。

(2)教科・設問ごとの分析結果

教科に関する調査結果について、各教科・設問ごとに分析したところ、習得の状況が良好であると見られる特長と指導の改善・充実が求められる課題が見られました。

～主な特長と課題～

小 学 校	国 語	特 長	<ul style="list-style-type: none"> ・送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる。 ・文章の種類とその特徴について理解している。 ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 ・必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中 心をつまえることができる。
		課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。 ・日常よく使われる敬語を理解すること。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ・目的や意図に応じ、話の内容をつまえ、話し手の考えと比較しながら、自分の考えを まとめること。
	算 数	特 長	<ul style="list-style-type: none"> ・伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りた い数を求めることができる。 ・正方形の意味や性質について理解している。 ・伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表 の中の適切な数の組を用いることができる。 ・（ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることが できる。
		課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・正三角形の意味や性質について理解すること。 ・加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすること。 ・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大き さの求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること。 ・高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その 理由を言葉や数を用いて記述すること。

中 学 校	国 語	特 長	<ul style="list-style-type: none"> ・事象や行為、心情を表す語句について理解している。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる。 ・目的や場面に応じて質問する内容を検討することができる。 ・聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができる。
		課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。 ・文脈に即して漢字を正しく書くこと。 ・観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えること。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。
	数 学	特 長	<ul style="list-style-type: none"> ・数と数式の乗法の計算ができる。 ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。 ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。 ・結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができる。
		課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解すること。 ・反比例の意味を理解すること。 ・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。 ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。
	英 語	特 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択することができる。 ・道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択することができる。 ・忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択することができる。 ・図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択することができる。
		課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択すること。 ・与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させること。 ・友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択すること。 ・学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書くこと。

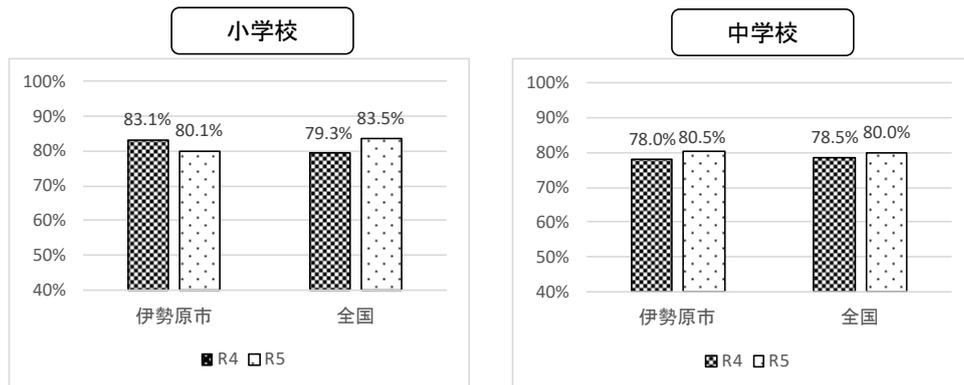
2 児童生徒質問紙調査の結果から

* 各グラフの数値は、質問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した児童生徒の割合を示しています。

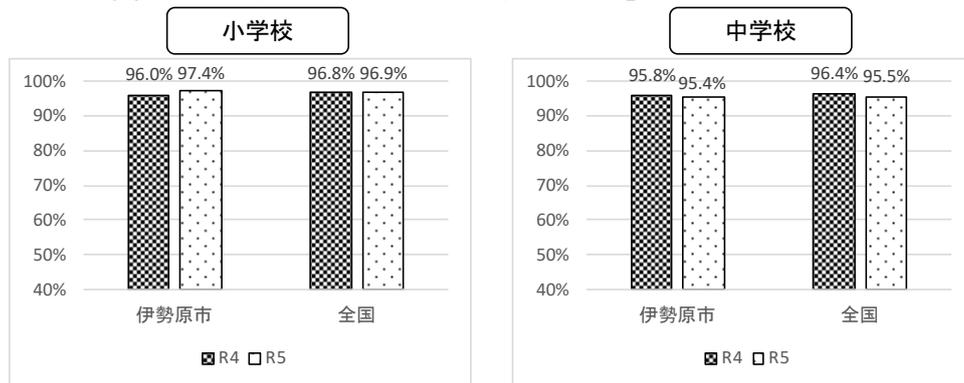
(1) 児童生徒の生活に対する意識に関して

- ・自分にはよいところがあると感じている児童生徒の割合は、小学校においては昨年度より低下し、中学校においては昨年度よりやや上昇しています。引き続き、各校での教育活動や道徳教育など、さまざまな場面で、児童生徒の自己存在感や自己肯定感を高め、共感的な人間関係の育成に努める等、個や集団に応じた指導に留意する必要があると考えます。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答している児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに高い状態です。今後も、児童生徒の意識を高めていく取組を継続していく必要があります。

Q「自分には、よいところがありますか」



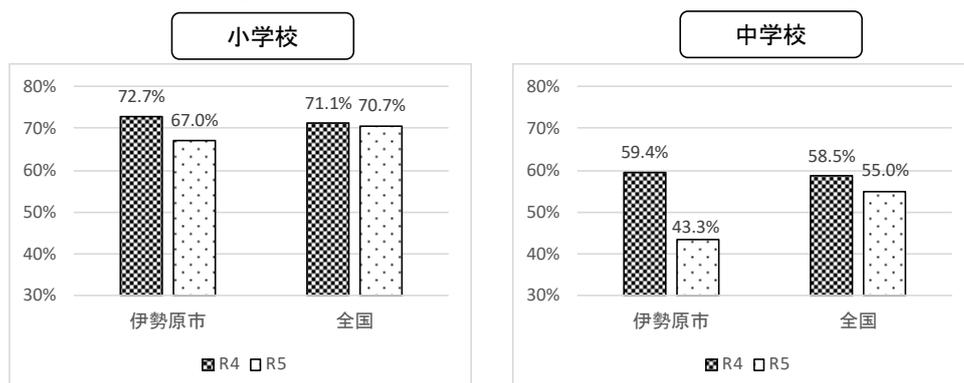
Q「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」



(2) 家庭学習に関して

- ・家で計画を立てて勉強している児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに昨年度と比較し低下しています。今年度は、コロナ禍以前と同様の学習活動や部活動が実施され、計画的に家庭で学習することへの意識が薄れてしまった等の可能性が考えられます。
- ・主体的に学習に取り組めるように、学習課題を明確にするとともに、勉強の仕方を指導することが必要と考えます。学校と家庭とが連携して、学校の学びを家庭へつなげることも大切です。

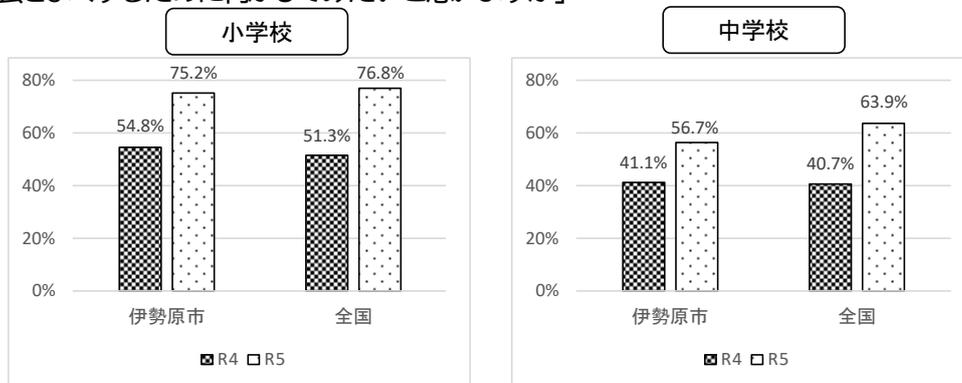
Q「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」



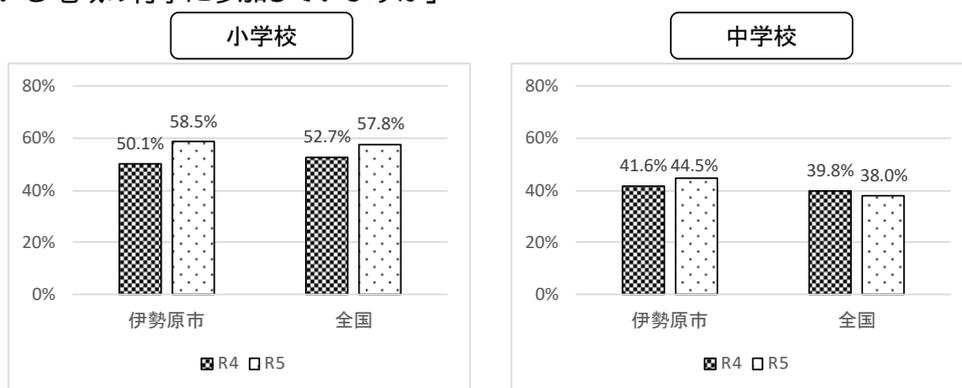
(3) 地域や社会に関わる活動等の状況について

- ・地域や社会をよくするために何かしたいと考えることがある児童生徒の割合は、昨年度と比べると小学校、中学校ともに上昇しています。さらに、地域の行事に参加している割合においても、昨年度よりも上昇しています。
- ・今後も社会に開かれた教育課程の実現のため、継続して地域の魅力やよさを生かした学習活動に取り組むとともに、地域とともに児童生徒を育てていく必要があります。

Q「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」



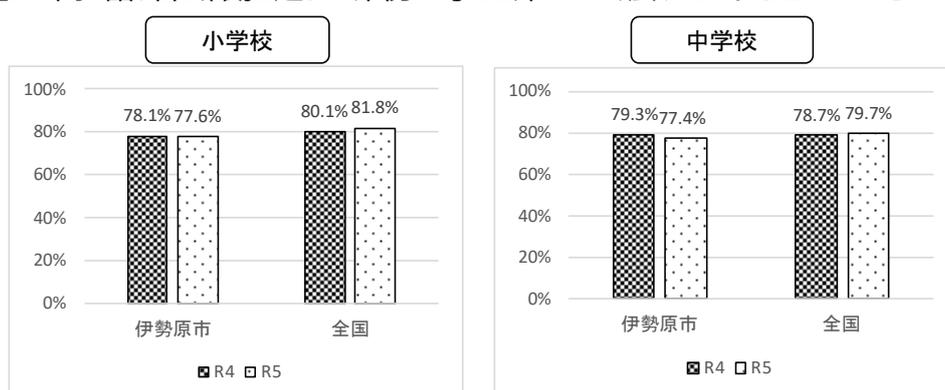
Q「今住んでいる地域の行事に参加していますか」



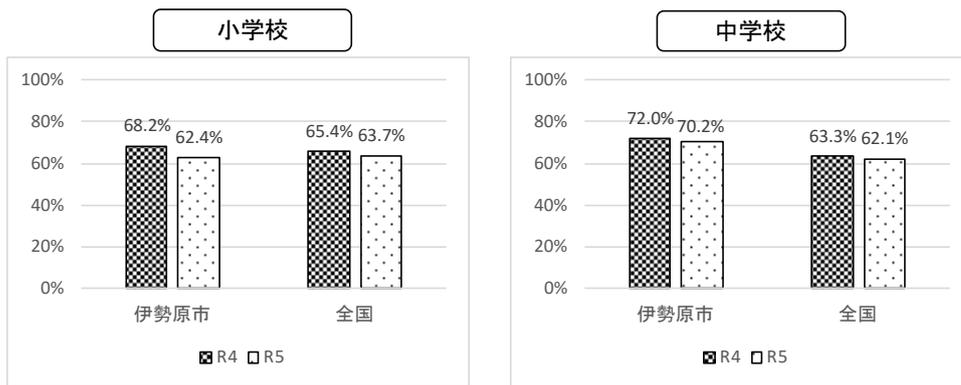
(4) 主体的・対話的で深い学びの視点から

- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と、主体的・対話的で深い学びの視点からの活動に関するそれぞれの項目において、小・中学校ともに、全国と比較して大きな差はありません。
- ・引き続き、話し合う活動や自分の考えを発表する学習をさらに充実させていくことが必要です。また、思考力・判断力・表現力等の基盤となる言語能力の育成に当たって、児童生徒の発達段階に応じた問いや言語活動を設定するなど、指導を工夫していくことが重要です。さらに、課題設定の工夫や言語活動の充実等を通して、児童生徒が主体的に学ぶ意欲を高めていく必要があります。

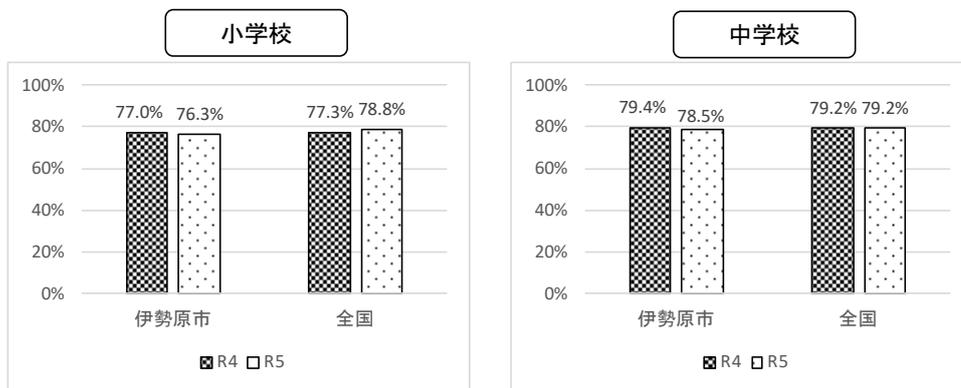
Q「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか」



Q「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」



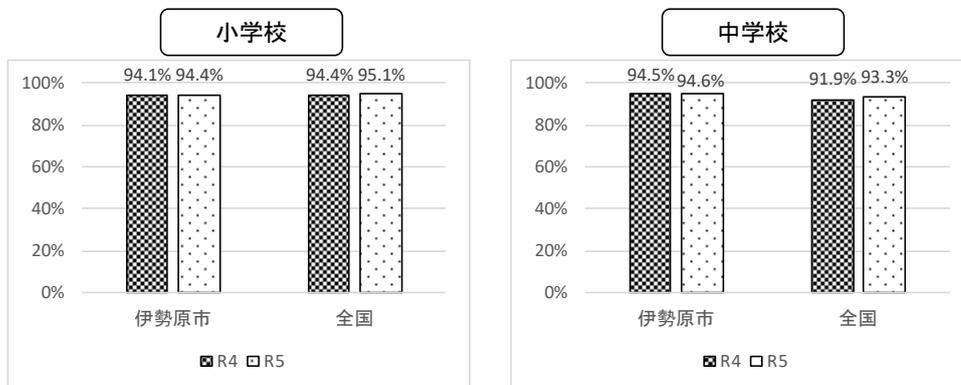
Q「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」



(5) ICTを活用した学習状況

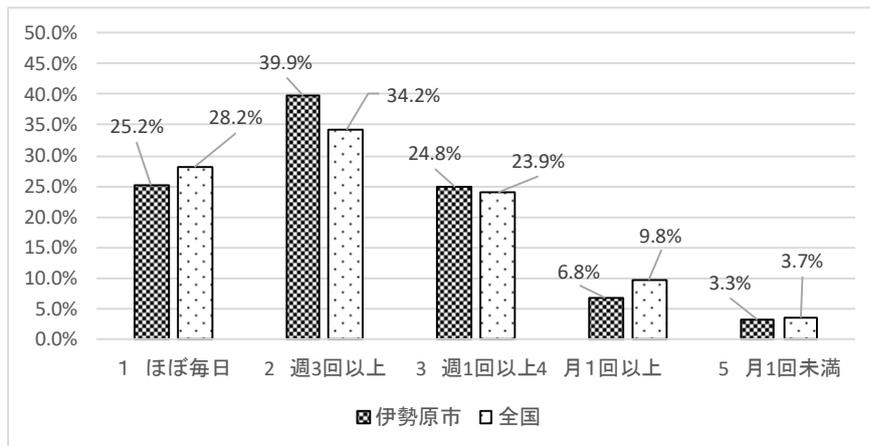
- ・「学校の中で PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答している割合は、昨年度に引き続き9割を超えています。
- ・授業における PC・タブレットの利用の頻度は、小学校においては昨年度と比較し上昇しています。一方、中学校における使用頻度は昨年度に引き続き高い状況です。
- ・学習におけるそれぞれの場面において、PC・タブレットを用いた指導方法について引き続き研究を進めるとともに、児童生徒の資質・能力を育成するため、ICT 機器の効果的な活用を図っていく必要があります。

Q「学校の中で PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」

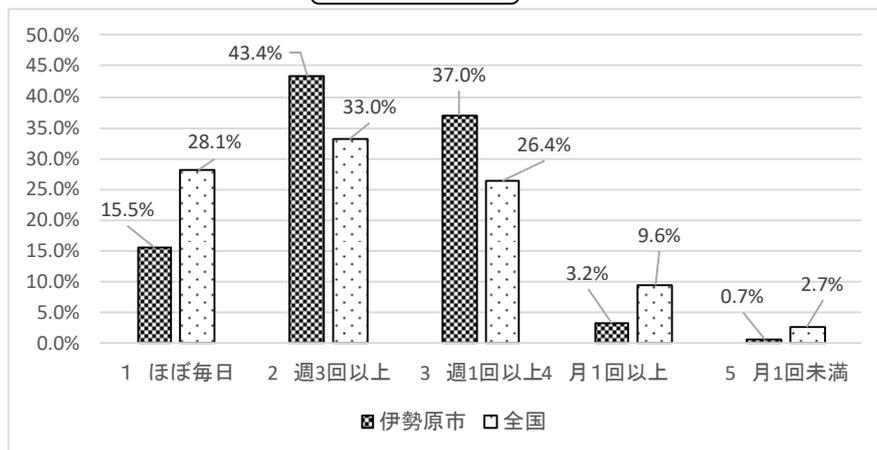


Q「5年生(2年生)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」

小学校



中学校



3 児童生徒質問紙調査と教科に関する調査のクロス集計結果から

児童生徒質問紙調査の結果と教科に関する調査結果との関係を見ると、次のような児童生徒の方が、教科の正答率が高い傾向が見られました。

- ・朝食を毎日食べている。
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている。(小学校)
- ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。(小学校)
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしている。(学校の授業の予習や復習を含む)
- ・新聞を読んでいる。
- ・読書は好き。
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
- ・授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。
- ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- ・授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。
- ・前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などと感じている。
- ・学級の友達(中学校においては「生徒」との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

4 学校がよりよい授業実践に向けて重視していきたいこと

各学校では、次のような点を重視し、全学年・全教科を通じて授業の充実を図る必要があります。

- ・習得した知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の資質・能力をはぐくむため、各教科において、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組むこと。
- ・1人1台端末をはじめとしたICT機器を効果的に用いることで、主体的・対話的で深い学びや個に応じた指導の充実を図ること。
- ・各学年・各教科での言語活動の実施状況や課題設定の工夫について職員間で共有するなど、学校全体としての取組を充実すること。
- ・家庭との連携を図りながら、発達の段階に応じて家庭での学習課題への取組を指示したり、学習計画の立て方や学び方について具体例を挙げながら指導したりすることで、児童生徒が自主的に学ぶ力を育むこと。
- ・全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学校全体の教育活動の改善に生かすとともに、引き続き、保護者や地域の方との協力・連携を進めること。

【小学校国語】

- ・学習活動や日常生活において文や文章を書く際、必要に応じて漢字を使う意識がもてるように指導する。その際に、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くよう指導を工夫する。
- ・日常生活の中で敬語を使う場面等を具体的に想定した学習活動を行う。また、学校行事や来客時等に敬語の使い方を確認するなどし、敬語の定着を図る。
- ・文章や資料を読む際には、読む目的を意識することを促すとともに、読んで理解したことと既存の知識や体験と結び付けながら自分の考えをまとめる活動を取り入れるなどする。また、複数の文章や資料に書かれていることを比較することで、自分の考えを広げることができることを実感できるようにする。
- ・話を聞く前に、自分が話を聞く目的や求めている情報等を明確にしたり、知りたいことや疑問に思っていることを整理したりする機会を設けるなどする。また、話し手に質問するなど、話し手の考えと比較しながら自分の考えを深めたりまとめたりできるようにする。

【小学校算数】

- ・図形の観察や操作活動をとおして、操作の見通しとともに、図形の意味や性質を考えることができるようにする。
- ・計算に関して成り立つ性質と様々な場面や事象を関連付けて考察できるように指導する。
- ・調べようとする数量と関係のある数量を見いだしたり、数量やその関係を表にまとめたり、変化や対応の特徴を問題の解決に活用したりするなど、日常生活の様々な場面で関数の考えを使って問題を解決できるようにする。

【中学校国語】

- ・「原因と結果」「意見と根拠」などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面で活用できるように指導する。
- ・漢字の意味や用法などの知識を習得するとともに、実際に漢字を書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣を養うことができるように指導の工夫を行う。
- ・説明的な文章において、文章で述べられている内容を確かめた上で、文章のどの部分にどのような表現の工夫が見られるかを捉えることができるよう指導する。
- ・古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げ、生徒が古典との距離を縮め、古典の世界に親しむことができるよう指導する。

【中学校数学】

- ・空間における平面が一つに決まるときの条件を見だし、観察や操作などの活動を通して実感を行いながら理解できるようにする。
- ・伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表、式、グラフを用いて、二つの数量の変化や対応の特徴を考察できるようにする。また、どのような関数関係にあるかを判断し、問題解決に生かせるように指導する。
- ・日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるように指導する。その際、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して分析し、データの分布の傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実させる。
- ・日常的な事象における数量の関係を一次関数とみなして問題解決することや、表、式、グラフを相互に関連付けて考察することなど、関数を活用することのよさを実感できるようにする。

【中学校英語】

- ・まとまりのある文章を書くことについて前回調査から継続課題となっていることや、「書くこと」に関する問題の無解答が多い傾向があることから、説明文では「その具体例」まで書くこと、意見文では「その理由」まで書くこと等、目的に応じた文章構成を意識して書くことができるよう日頃から指導する。
- ・小学校で育成された力を生かしながら、事実や意見、気持ちなどを伝え合い、会話を継続・発展できるようにするために、生徒同士や教員・ALT等との即興的な言語活動を行う機会を十分に確保する必要がある。その際、1人1台端末等を活用して個に応じた指導を行う等の配慮も考えられる。
- ・「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「読むこと」及び「書くこと」の各領域の言語活動をできるだけ有機的に関連させるとともに、意味のある文脈の中で既習の語彙や表現に繰り返し触れることができるように、指導計画を工夫する。

5 家庭にお願いしたいこと

進んで学ぶ子どもを育てるために、家庭においても特に次の点について、ご指導をお願いします。

- ・ 規則正しい生活習慣を心がけましょう。
例) 早寝・早起き・朝ごはん、家庭学習や読書等の習慣 等
- ・ 家族で、学校や地域、社会での出来事、将来のことなどについて話題にしてみましょう。
- ・ 日常生活の中での「達成感」を大切にしましょう。
例) 家庭の中で子どもに役割を与えましょう。子どものがんばりをほめましょう。
- ・ ボランティア活動や地域の行事等に一緒に参加しましょう。
例) 公民館まつり、総合防災訓練、地区・学区体育祭などへの参加 等
- ・ テレビゲームや携帯電話・スマートフォン等の使い方について、話し合しましょう。
「スマートフォンの使い方 フォン当に大丈夫? ~STOP!! 1タップ~」

(令和3年度伊勢原市中学生からのスローガン)



伊勢原市教育委員会では、家庭学習の手引きとして、冊子『**学びのすすめ**』を作成し、学校を通じて家庭に配布しています。ぜひご活用ください。

参考 冊子『**学びのすすめ**』は、伊勢原市教育センターのウェブサイト内リンクリストからダウンロードできます。伊勢原市教育センターURL <http://www.isehara.ed.jp/center/>

6 地域にお願いしたいこと

社会に開かれた教育課程を実現し、これからの時代を生きる子どもたちに必要な力を育むため、学校と地域が相互に連携していく必要があります。引き続き、ご理解とご協力をお願いします。

- ・ 地域の未来を担う子どもたちの「生きる力」をともに育むため、自然環境や歴史文化等の地域の魅力やよさを生かした体験活動の機会を充実させましょう。
- ・ 各地区の祭りや市民清掃など、地域の行事や活動への子どもたちの参加を促し、郷土への愛着と誇りをともに育てていきましょう。
- ・ 子どもたちが地域で安心・安全に過ごせるよう、ともに見守っていきましょう。

